



巻頭言

宮城県漁業協同組合会長 丹野 一雄

東日本大震災の爪痕は、海苔、牡蠣、ホヤなどの養殖業で生計を立ててきた海に生きるおいだちにとって、大打撃になつてしまつて、長年親しかつた同業者も犠牲になつてしまつた。

石巻湾、万石浦湾、牡鹿半島沿岸の復旧はどんなぐなんだべと思つて、夜も眠れないことがあつた。

維持年会費アップご協力お願いします



財政赤字

東北ボランティアに向かうにも、高速料金、燃費など二回につき少なくとも20万円近くの交通費を要します。2016年度は148万円の赤字が見込まれます。

原因のひとつに観光庁の布告により、参加費徴収の宣伝ができなくなり、新参加者が減つたことが理由です。復興庁の思惑とは異なり、どのボランティア団体も経済的に立ちゆかない状態です。

その時、神戸から若者達が、ボランティアに来て何か手伝いできぬすか！と岩村義雄先生に言われて、正直、素人の学生には何もできねと思つたけど、それでも一生懸命やつてもらいました。

養殖を手伝い、県で悲願の優勝をした全国大会決勝で惜敗した玉野光南高等学校のサッカー部員、海苔の出荷を手伝つた神戸大学生たちが、ネパールに出がけたりしたことは、石巻がとりもつた誇りだと思ひ縁を感謝します。

そこで理事会は、神戸国際支縁機構も年間維持費、季刊誌「支縁」の協賛広告費を上げること、皆さまにお願いせざるを得ないことについて6月22日に決定しました。

新代表を中心に孤児、独居の高齢者、貧しい人々への活動がますます用いられまますようにみなさまのご支縁をお願いします。

- ・年間2000円の維持会費を2400円に変更(①月に2000円相当)
 - ・協賛広告費 2万円から3万円
 - ・賛助会費 5000円
 - ・そのまゝ 賛助会費は主に団体。
 - ・特別寄附 1万円そのまゝ
- 皆さまのご理解、協力により、機構が引き続き、被災地、弱者、孤児たちのために活動できますようにお願い申し上げます。

2016年9月1日
理事 長 岩村 義雄
代 表 村上 裕隆
事務局 長 本田 寿久

理事会は、東北ボランティアに60回以上足を運んでいる村上裕隆君(26歳)が機構全体の代表を担うことに決議しました。



「丹波の森ふれあいフェスティバル」
2016年10月23日 募金総額5,325円

イタリア救援金先はイタリア・ローマカトリック教区(教皇名義)。大阪府立長野高等学校の生徒会も1万4669円もの募金を寄せてくださいました。

ヤマザキ
世界のパン
ヤマザキ

株式会社 チュチュアンナ
代表取締役社長

上田 利昭

tutu.anna™

MiYOSHi

ミヨシ石鹸株式会社

〒130-0021
東京都墨田区緑3-8-12
TEL 03-3634-1341

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

竹中工務店
〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1

東北ボランティア報告

村上 裕隆

第5回目の稲刈り

宮城県石巻市渡波において、神戸から延べ人数2000人を超えるボランティアが農業、漁業、林業に仕えてきました。兵庫県立農業高等学校の高校生たちも幾度となく引率しました。「田・山・湾の復活」をスローガンに、最大の被災地である石巻市で汗を流しました。2011年には、田んぼのがれき撤去、用水路、排水路復興のためにスコップで掘り起こし、雑草刈りに従事しました。2012年には「田んぼアール」でカラフルなコウノトリをデザインし、兵庫県から宮城県に飛来するヴィジョンを持ちつけています。傾聴ボランティアで独居高齢者や、孤児たちについての実状がわかり、今年6回目となる収穫祭だけでなく、ケアにも力を注ぐようになりました。

リピーターたちのめざましい活躍も見逃すことはできません。東北ボランティアで結ばれたカップルたちも今は育児をされている祝福もあります。しかし、東北の被災地に対する復旧、復興、再建はすでに終わったと思っている向きも多い

石巻市 今秋から段階的に集約
自立支援へプログラム策定

石巻毎日新聞



進まない入居報道
「石巻毎日新聞」(2016年6月14日付)
「石巻かほく」(2016年10月8日付)

です。残念です。風化、すなわち無関心が被災地の孤立化、孤独化、震災関連死、自殺を招いています。全国紙、テレビ報道にはほとんど取り上げません。復興住宅もままならず、仮設住宅住まいに取り残されています。日本には、互酬(Reciprocity)というボランティア精神がありました。貧しい人の軒下にとつと食べ物をお願いののです。阪神淡路大震災を体験した地域からまだ生まれていなかった、幼かった若者たちは引き続き挑戦します。

石巻毎日新聞 2016年(平成28年)9月26日

長靴はいて鎌を手に
稲刈り実りの秋実感
石巻市万石浦幼稚園の園児とボランティアが、稲刈り体験を行いました。園児たちは、鎌を手に、稲を刈り、収穫の喜びを味わいました。

鎌で稲刈り体験する園児

稲刈り「石巻毎日新聞」(2016年9月26日付)

新 鹿 牡
平成28年 9月30日

万石浦幼稚園の年長組園児 20日稲刈りを体験

園児たちは、鎌を手に、稲を刈り、収穫の喜びを味わいました。

稲刈り「牡鹿新聞」(2016年9月30日付)

氏、佐島みさえ氏、そして鈴木健一氏は今年も大正時代の脱穀機を貸してくださいます。悲しい知らせもあります。祝いの浜の本田敏子さんは3月10日に93歳で逝去。庭の剪定、植樹が趣味でした。2012年1月に漁業ボランティアをしてからの知り合いです。明るく迎えてくださり、2015年11月24日、寒いにもかかわらず、いつでも見送ってくださいました。

機構に林業ボランティアの会を提供して下さった鈴木健一氏、石巻森林組合元合長の正子夫人は若者たちが脱穀機を借りに行ったおり、座敷にあげよくもてなしていただきました。5月14日に逝去。

漁業ボランティアでお世話になった丹野清市会議長の御母堂トミさんも9月に永眠。慎んで哀悼の意を捧げます。

- 「キリスト教とボランティア道」(岩村義雄 東京大学出版会 2016年6月)
- 第58次東北ボランティア報告
<http://kiisokobe.ssb.jp/event/8391/>

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構です。ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,400円/1年
賛助会員は、一口5,000円/1年

郵便振替 口座 00900-8-58077
加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

三菱東京UFJ銀行 462(三宮支店) 普通 3169863
神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には必ず「国名」と「地域」を書き添えてください。

石巻・万石浦幼稚園
鎌を使って稲刈り体験
収穫の喜び味わう

稲刈り「石巻かほく」(2016年9月28日付)

法律相談初回無料。
お気軽にご相談下さい。

宮永法律事務所

みやながたかし まつたやすお
弁護士 宮永亮史 弁護士 松田康生

〒650-0016 神戸市中央区橋通1-2-14
TEL 0120-997-181
TEL 078-351-1325 FAX 078-351-1270

特定非営利活動法人

みもぞ

TEL 078-262-0460

医療・保健介護・
福祉・教育に関する事業
共生社会の実現

SERVING MANKIND

Humanity First

「ヒューマニティ・ファスト」
日本アハマディア・ムスリム協会

夢に近づく
夢を産み出す...

KINSAN

近畿産業信用組合

総合コールセンター
0120-111-019

国際活動

第3次ネパール 村田 義人

国際活動に東北ボランティア
体験者が挑戦

昨年4月25日のネパール大地震後、第1次5月12日以降、首都カトマンズ、ダラムサライ、パンガ、マナハリの4地区で救援金贈呈、震災孤児のための生活支援、教育費を携え2人の学生が訪問。「震災で心に大きな傷を負った被災者への傾聴活動などに当たった。被災者のショックでうつ病になった女性や、幼子を亡くした悲しみで心だけでなく体調まで崩した親など、現在も続く深刻な事態に『沈黙せざるを得なかった』」(「中外日報」2016年9月21日付)。

12月にネパール訪問予定。クラウドファンディングで達成した100万円を孤児のための施設建造に手渡せることを紙面を借りて御礼申し上げます。

第1次ベトナムボランティア 出発

11月13日(17日) 植地亮太(第42次、丹波水害、ネパール)、三村修司(熊本ボランティア)が岩村義雄団長と共に訪問。クアンビン省ホアンダン・クアン書記長兼人民代表委員会委員長(知事に相当)や、フエ市グエン・ヴァン・タン市長に兵庫県井戸敏三知事、久元喜造神戸市長の親書を携えて訪問。

「テレグラフ紙」によると、34人が死亡、11人が行方不明。

洪水で40万軒の家屋が損壊。8万人以上が避難を余儀なくされています。(2016年10月27日現在)

最も大きな被害がでているクアンビン省はユネスコの世界遺産にも登録されているフエ市より比較にならないほど被害が大きいとホアン・ダン・クアン氏(書記長)は

記長)は



救援募金

兵庫県庁を11月1日に訪問した際、語った。バヌアツ、ネパール同様、鯉のほりや風船は神戸スィミーププロジェクトの栗須哲秀代表から預かります。

第3次バヌアツボランティア バヌアツ訪問
来年3月 阪本哲紀君(京都大学医学部生)申し込む。

現地 資材
購入費不足のためバヌアツ・クラウドファンディング開始
100万円



スターフィッシュ・ハウス完成を待ち望む

クリスチャン新聞

2016年 10月 23日(日曜日)



救援金を渡す村田さん(左)と谷口さん

神戸国際支援機構ネパール支援報告会 忘却された少数者と共に生きる

昨年4月に起きた大地震、続けてきた神戸国際支援機構(岩村義雄理事長)は、今年9月5日から10日まで現地を訪問。参加者は村田義人さん(京都工芸繊維大学4回生、谷口浩平さん(神戸大学2回生)2人の学生チーム。

チャイルド・ケア・ホーム建設のための現地視察とともに、甚大な被害を被った被災者に救援

金をお届けした。9月14日に兵庫県民会館で開かれた「第3次ネパールボランティア報告会」で、岩村氏のレポートを届ける。

今回、2回目のネパールボランティアに参加した村田さん、谷口さんは、カトマンズから約8時間の地方へ出かけたマナハリでは、モンゴル系の少数民族の集落を訪ねた。

多民族の国とは言え、マインリティー少数民族の群れはキリスト教徒たちで、日本からのボランティア、孤児、寡婦を苦しめ、

イアを温かくもてなし、生きていくのに精いっぱいにもかかわらず、村人はどこまでも、寝る場所を提供した。2人は昨年同様、箸、スプーンなど使わず、右手で巧みに食べる。どこに行っても子どもが多いが、日本からの若者は懐然とする。群がる子ども達は震災で親を失っている。主はこう言われる。正義と恵みの業を行い、搾取されている者を救う者の手から救え。寄留の外国人に日本からの救援

虐げてはならない。またこの地で、無実の人の血を流してはならない。エレーマ22:3。新共同訳にある聖書の言葉が思いに刻まれる。

村田さんはキリスト者家庭で育った中で、礼拝出席、献金、行状などは良い子証候群であった。しかし、目の前にある孤児、寄留の外国人、寡婦(やもめ)には沈黙せざるを得なかった。宗教とは何か、という本質的な問いを突きつけられた。大学院生になり、良い企業に就職するという一般の学生と同じ願いを考えた。谷口さんは、東北ボランティア参加により、被災者に無関心な世相に抗うようになった。寄り添うことに挑戦する生き様

の延長が今回のネパールボランティア参加の動機になる。初めての海外渡航である。自分の生まれ育った地域には、ウトロパンガ、マナハリ、カトマンズ各地を巡った。2014年度の一人当たりのGDPがネパールボランティアは75ドルに対して、日本は38万5千300ドル、約40倍以上です。ですから日本からの救援金は少なくとも、千円は1万円以上の価値があります」と村田さんは、日本とネパールを語る。

谷口さんは、東北ボランティア参加により、被災者に無関心な世相に抗うようになった。寄り添うことに挑戦する生き様をしめくった。

クリスチャン新聞(2016年9月23日付)



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124
URL: www.tamanohada.co.jp

(株)吉原金属

神戸市北区道場町塩田2082

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

本田商会

〒662-0051 西宮市羽衣町 5-23

電話: 0798-38-7560

FAX: 0798-38-7561

お気軽にご相談ください。

(有)吉田興業

神戸市兵庫区湊町1-1

ボランティア道の母逝く

感謝を込めて

代表 村上裕隆

岩村カヨ子夫人と初めてお会いしたのは2011年3月20日のことです。当時ばかりはひきこもりでありましたが、岩村義雄理事長に第1回目の東日本大震災ボランティアに誘っていただき、それから夫人には実の息子のように可愛がっていただきました。ボランティアにより歩きを始めたときから、夫人にいつも「あなたのような人はいない」と励ましていただいたことで、これまでボランティアを続けられたと思っています。おいしい手料理はどこのレストランも負けていた。防腐剤、添加物、人工のものではなく、わが家と同じ自然食であることも安心していただき、おふくろの味として忘れることができません。

丹波水害が2014年8月に発生しました。神戸国際支縁機構は現地で最初の炊き出しを依頼されます。夫人は150食以上の豚汁、筑前煮の具材を購入するため、素早く行動しました。その日、神戸市東遊園地の炊き出しの楠元留美子班長です。どれだけの分量を購入すべきか躊躇してしまいう量の計算です。大根、にんじん、豚肉など瞬時に必要量を暗算ではじき出し、2時間ほどで購入してしまいました。「計算機より早い」と身近な人々も脱帽していました。

暗証聖句もだれよりも早く覚えて正確に唱えられ、私たちはあせったことについて懐かしく思い出します。祈りの人でもありません。夫の健康、事故がないように、たゆまず祈っておられる姿がすぐに目に浮かびます。学生たちや僕に頭を下げて、「主人

をよろしくお願いします」が口癖でした。テレビドラマ以上にこれほど愛し合う夫婦はいないのではいつも思わされます。

翌年、丹波市島で記念のイベントの際、みんな楽しんでました。



丹波水害から1年 市島ひなたぼっこ
2015年9月13日 岩村カヨ子 夫人(中央)

夫人は今年の6月3日以降、ご自宅で末期がんの痛みに苦しんでおられました。買い物に行く時、留守番を頼まれます。「痛いよ」と夫に叫んでおられますが、どうすることもできず、おろしました。飛んで帰ってきた

理事長は「寂しい思いをさせてごめんね」「寂しかったわ」という会話がなされます。

そんな痛みで苦しんでおられる時でさえ、周囲の者に気にかけてくださり、よくが今年9月14日J.R元町駅前を声上げて街頭募金をしたこと、10月1日に賀川記念館の「ボランティア・福祉・宗教」で対話集会のワークショップで発表したことを涙を流して喜んでくださいました。人生の中でよくのために涙を流して喜んでくれる人がこれからどれだけのいるでしょうか。

同じ団地で、近くに住んでいながら、息を引き取るときに会えなかったことは悔やまれます。まるで「裕君」と起き上がって語りかけるような安らかな死に顔でした。今も共に生きておられ、微笑んで見守っておられることが伝わります。ボランティアに目を開かせてくださった「母」に恥じぬように、苦悩する人々に仕えていきます。

連載「むかし、むかし」(その十)

阿部 捷一

江戸時代

- ・1611年12月2日 慶長三陸地震
- M8.1 伊達正宗領内溺死者5000人
- 仙台平野で内陸を2キロ遡上した。北海道東部沿岸も大きな被害。(駿府記)
- ・1677年11月4日 延宝房総沖地震
- M8.0 津波地震とみられている。
- ・1703年12月31日 元禄関東地震
- M8.2 津波の高さは8メートル以上20メートルもあり、津波が大吠埼から下田まで襲い数千人が犠牲となった。
- ・1707年10月28日 宝永地震
- M8.2 津波は、伊豆半島から九州までの太平洋岸を襲い瀬戸内海まで及んだ。死者2万人
- ・1854年12月23日 安政東海地震
- M8.4 房総で波高3〜4メートル沿岸から伊勢湾被害甚大 死者2〜3千人

(つづく)

編集後記

岩村カヨ子夫人、お疲れさまでした。夫岩村義雄理事長は、被災地や、天涯孤独の方の身元引受人、弱者や難民に寄り添うボランティア、収入は決して多くはありません。にもかかわらず、不平を漏らさず、妻として家事にいそしみ、柔和に自宅に出入りする多くの若者たちを導きました。結婚生活のほとんどは他者のためであったにもかかわらず、身だしなみ、振る舞い、外観は生活苦を微塵も感じさせませんでした。初対面の人は裕福な奥さまに映ったことでしょう。しかし、生活の実状がだんだんわかってくるとどこにそんなマジックのような秘訣があるか不思議でした。貧しくとも「世界一の夫婦」としてうらやましがられるほど、夫婦仲は近所でも有名でした。

20人近くの若者たちに即座に食べさせるために、「飯場のおばさん」と呼ぶ女性もいました。家事らしいことを何もしたくないように見えるのに、またたく間に包丁、調理、味付けをしてしまいます。「聡明な女性は料理がうまい」という本がありますけれど、まさしく夫人のことを描写しているかのようです。掃除をはじめ、裁縫、盛りつけなど何をするにしてもとてい真似ができないほど賢さがにじみ出ていました。

家族間の不和、反抗期の子をもつ親、宗教の不信感などについて、電話だけでなく、何時間でも親身になって聴かれています。そのことで文句を申し上げたことがあります。「かかってきたらすぐに電話を切ってください」と。食事や入浴、プライベートのゆったりした時間はないづくめでした。とことん相手の側に感情移入されていました。口は固く、個々の秘密は決してだれにも漏らさないことでも信頼されていました。それはすごいストレスであったと夫婦でよく話題になったものです。

炎天下で道路工事をしている労働者を見ると、見知らぬ人たちにでさえ、冷たい飲物を持って行く姿は天使のようでした。

私は小学校の時から、夫人を尊敬し、まぶしいように見てきました。亡くなった私の父、また、私の母が寝込んだり、入院した時もお弁当や、洗濯、買い物など自分の家族ができないことをしてくださいました。多くの人々に自分の身を粉にして仕える生き様こそ「ボランティア道の母」と言えます。私たち夫婦、息子たちだけでなく、悩んでいる人にとり、かけがえのない存在でありました。

妻の役割はできませんが、岩村義雄を支えていきますから、安心してください。

本田 寿久

救援金、維持会費ご協力感谢您。(敬称略)

2016年7月10日~10月15日

尾関マユミ、阿久津正幸、縄手靖市(法専寺)、忍ヶ丘キリスト教会(2)、
「小さくされた人々のための福音」講座(3)、定形和子、三木京子、
株PeaPod&有志、土屋雅彦、毛藤智夫、塩屋キリスト教会、中島信光、
笠井恵二、後藤仁美、吉田徳夫、島田信一、高島邦生(2)、川井浩三、福森恵美、
福岡真悟&ウィルソン、野田和人、辻良雄(2)、春重祺子、酒井彰、酒井久美子、
西上千栄子、匿名、鄭恵姫、野崎和子、ゲベルひでみ、岩崎謙、濱岡京子、
辻良雄(2)、西崎京子、宮本要、安立昇(2)、角家永久子、柴田正生、柴田富士子、
岩村義雄、大國龍生[伊波波夜和氣神社宮司]、木村襲治、千葉幸一、
竹内牧子、さかいようこ、豊原大成[全国仏教会前理事長]、村上安世、
千田豊穂(宮城県石巻市光厳寺住職)、山野英雄、青木玉枝、
株レスキューナウ危機管理研究所、市川啓一、平野昌司、藤本英樹、袴田康裕、
大島修、大島敏子、イエス・キリスト聖伝伝道教会、山本裕、山下妙子(2)、
大田正紀、保田薫、永野由子、河内常男、岩村カヨ子、池永タケコ、
第3次ネパールボランティア報告会、街頭募金、沖縄バプテスト連盟ルア教会、
阿部和夫、阿部育子、岡本毅一

計1,114,430円

クラウドファンディング

森中あゆみ、鷹巣直美、白方誠彌(2)、赤川祥夫、鍋島隆、村田義人、古川直子、
岩崎謙、アシュラム・センター 榎本恵、井川美由紀、長島康弘(2)、原浩司、
松村淳子(3)、後藤由美子、村田優美子、観音寺(三鷹市)、金澤和夫、
左成和朗、小川絵美、大場寿博、上田和巳、大島健二郎、中山圭子、宮坂信章、
主イエス恵愛教会、高橋務、菊池則子(2)、大島修、大島敏子、
神戸国際キリスト教会、岩村義雄、山下妙子、石橋まり、松村達也、溝田悟士、
若林淳子、武智務、村田充八、森祐理、白瀬小一郎、大田美智子

計1,039,000円

古川コンサート、岩田敏子さんから熊本に、炊き出しのため、耕支縁の岸本豊氏、山本勝氏、宮城県石巻市仮設住宅の斎藤さよ子さんからの30キロの米、鈴木健一氏、フードバンク関西からの協力、宮城県北川種子さん、三木美保さんからたくさんのお支縁物資を感謝。